

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	no. 33	重度化、終末期の見極め（現状把握、理解を家族に求める）	入居年数が長くなる入居者が大半となっている。家族の思いとしても、聞き取りをしている中では最期もお願いしたい意向であるが、現実問題として入居者の身体状況が医療措置を必要とする段階となった、近い場合の見極めを納得のいく形で転院等の流れがスムーズに行くようにしていきたい。	食事形態（経口摂取が限界）の確認、排泄状態と、病歴から主治医の診立ても含めて家族と意思確認をより細かくしていく。携わる職員の思いも鑑みながら家族の思いだけでなく、事業所で出来る事、段階を书面等（口頭説明だけではキーパーソンのみの理解に留まってしまう可能性がある）で確認しながら進めるように努める。	長期
2	no. 13	職員を育てる取り組み	就業者の年齢が高齢化している事から、若手の就業者を集める努力をしながら、就業時間帯の工夫を取り込みながら幅広い年齢層の就業者が心地よく働ける職場の体勢を取る	子育て世代の真ただ中の職員にとって、急病等による病欠・早退がある事を前提として他スタッフも理解と協力が出来る様、日頃より全スタッフの考えや意見を取り入れながらシフト組みができるように取り組む。また、年齢に関係なく、学びたい、知りたいという職員への資格取得への支援や他施設での勉強会等参加を前向きとしての就業環境の整備を迅速にしていきたい。	随時
3	no. 30	かかりつけ医の受診支援	通常の往診を受け入れる体制としては整備がなされてきたが、外来等を抱える病院の急な往診依頼に対してうまく稼働出来ない状況の在り方をより細かく事例検討しながら、入居者が困らない判断をしていく	内科的（発熱）事項が発生した際の往診が相手方の整備がなされなかったりするケースが出てきた為、先方とより話し合いを重ね後手にならない見極め（早目の電話往診等による服薬指導、他病院受診指示等）を細かく詰めていく。	随時
4	no. 19	本人と共に支え合う家族との関係構築	家族も仕事に就いていたり、これまでの本人との関係上少し距離を置いたり様々なケースがあられる。しかし、入居者の身体・精神状態の進行により家族も認められる、受け入れられる情報の提供を出来るようにする	入居者の症状の進行等における現実を受け入れるのは家族にとっては酷な点はあられると踏んで、オブラートに包んで来た事は認めない。しかし、急変などのもしもの場合が起きてから現実的な状況説明よりも、月の便りなどを利用して現状把握のための足掛かりとして家族の方へも理解を深める為の情報共有の整備。情報提供者としては、当事業所スタッフ誰彼が窓口としては取捨がつかない事態を招きかねない為、責任者が必要な点を必要な時期に説明できるようアセスメントを月毎に重ねる。	随時

5	no. 4	<p>運営推進会議を活かして入居者の徘徊等発生した場合の地域の協力体制を仰ぐ</p>	<p>施設外へ徘徊する入居者の搜索をするケースに備えて町内会長の助言を取り入れながら事前準備出来る点、いざ搜索する段階になって依頼をする点の準備の整備</p>	<p>職員が目を離す隙をついて外へ徘徊する入居者が現状としておられるが、中庭等での行事を取り入れた際に皆との関わりをそっちのけで徘徊行動が激しく出られる。その経験より町内会長へもし施設外に出た場合の対応として協議を重ねたが、事前に本人の個人情報地域に流すのもプライバシーの観点から憚れる。現状の所、いつなんどき徘徊が発生した場合の対応策として搜索願の原案を作成し、どの入居者の方でも当てはまるように顔写真等控えておくよう意見を集約した。写真等の画像整備と共に、特に可能性のある入居者の家族への事前報告を勧める。</p>	<p>随時</p>
---	-------	--	---	---	-----------

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。